

地域に対する住民の意識が 地域愛着度と観光への関わり意欲に与える影響

地域への所属感と地域評価、観光振興に着目して

○室町祐輔¹・大杉尚也²・上市秀雄³

(¹筑波大学大学院・²かまいし DMC・³筑波大学システム情報系)

キーワード：地域愛着、地域評価、観光振興

The effects of resident awareness toward their local area on their attachment to the area and their willingness to participate in tourism

Focusing on local belonging, local evaluation, and tourism promotion

Yuusuke MUROMACHI¹, Naoya OOSUGI² and Hideo UEICHI³

(¹Univ. of Tsukuba Graduate School, ²Kamaishi DMC Ltd., ³Faculty of Engineering, Information and Systems, Univ. of Tsukuba)

Key Words: Local Attachment, Local Evaluation, Tourism Promotion

釜石市は、2011年3月の東日本大震災により大きな被害を受けた。その復興と新しい地域づくりの方針として、2017年に「釜石市観光振興ビジョン」を策定した。

釜石市観光振興ビジョン（釜石市ウェブサイトより）のもと、釜石市では「住まう誇り」を高めることを大きな目標としている。施策としては、滞在交流型観光の創出等がある。2020年に、主に観光施策に対する市民の評価を測定し、次期計画を策定するため、『釜石市観光振興ビジョン実施計画策定のための「観光と住民意識に関する調査研究」アンケート』を実施した。これは、2年に1度実施することとし、2022年に第2回調査が実施されている。

これまでの調査では、「住まう誇り」を一つの項目のみ（釜石で暮らすことに誇りを感じる）で測定していた。また、観光振興による地域活性化を目指しながら、地域住民の観光への関わり意欲について分析されてこなかった。

本研究では、まず、「住まう誇り」を測定するにあたり、地域愛着度（引地他、2009；杉本他、2020）に着目した。地域の一員であることと、地域に愛着があることを再確認するため、「住まう誇り」に関する項目を地域愛着度とし、自身が地域の一員と感ずるかに関する項目を地域への所属感とした。次に、これまでの調査では分析されてこなかった、観光への関わり意欲について、地域愛着度、地域評価や観光振興などの要因がどのような影響を持つのかを調査した。

本研究は釜石市の協力を得て、第3回『釜石市観光振興ビジョン実施計画策定のための「観光と住民意識に関する調査研究」アンケート』のデータを使用している。

方 法

調査対象者 18歳～69歳の釜石市市民を対象に、1400名を無作為抽出。質問紙を郵送し、同封の返信用封筒にて返送してもらったものを集計・分析。有効回答数は303名（21.6%）。

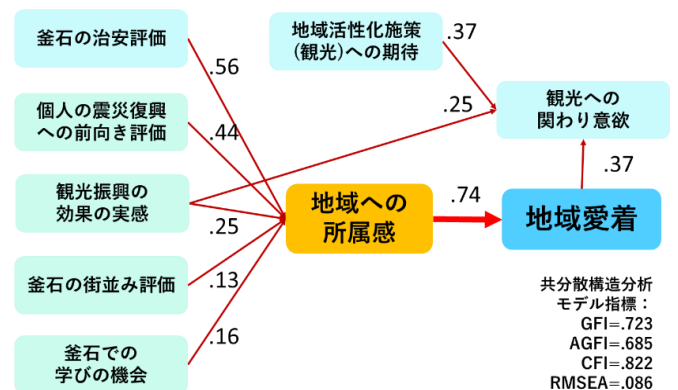
質問項目 地域愛着度（杉本他、2020）「この土地は自分にとって住みよい場所である」など10項目。観光への関わり意欲3項目。地域への所属感「自分は、自分が住んでいる地域社会の一員であると感じている」など3項目。地域評価として、釜石の街並み評価3項目、釜石の治安評価2項目、釜石での学びの機会3項目、釜石の防災評価3項目を作成。観光振興に関する項目として、観光振興の効果の実感6項目、地域活性化施策（観光）への期待4項目を作成。最後に、釜石市特有の項目として、個人の震災復興への前向き評価3項目を作成。各質問項目について、5段階評価（1：あてはまらない～5：あてはまる）で評価してもらった。

結 果

「地域愛着度」と「観光への関わり意欲」に影響を与える要因として、「地域への所属感」、「釜石の街並み評価」、「釜石

の治安評価」、「釜石での学びの機会」、「釜石の防災評価」、「観光振興の効果の実感」、「地域活性化施策（観光）への期待」、「個人の震災復興への前向き評価」を作成。各要因間の関連性を明らかにするために共分散構造分析を実施(Figure1)。

Figure 1 地域愛着度と観光への関わり意欲への影響モデル



考 察

観光への関わり意欲 Figure1より、住民の観光への関わり意欲を高めるためには、地域への愛着を高めるとともに、観光振興の効果を実感し、地域活性化の手段として観光施策に期待感を持ってもらうことが重要であることが分かった。

地域愛着 地域愛着に関しては、まず地域への所属感が必要であり、特に治安評価が重要であることが明らかになった。また、東日本大震災で大きな被害を被ったという地域性もあり、震災から立ち直れているか、そして新たな目標や関係性を手にしているかも大きな影響を持つことが示された。その他の項目からも、地域への評価が高くなることが、地域住民としての所属感を高め、ひいては地域への愛着を高めることになる。一方で、地域愛着を高めるためには、地域への所属感がまず高まる必要があることから、その醸成には時間がかかることも考えられる。

引用文献

杉本 あおい・杉野 弘明・上田 昌子・船坂 香菜子(2020). 現代日本社会における「関係人口」の実態分析：全国アンケート調査の結果から 沿岸域学会誌, 33(3), 49-58.

釜石市観光振興ビジョン

<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019010900055/>（最終閲覧日 2025/0326）

引地 博之・青木 俊明・大淵 憲一 (2009). 地域に対する愛着の形成機構——物理的環境と社会的環境の影響—— 土木学会論文集 D, 65(2), 101-110.